

私の目指す授業

動きを変化させる工夫を通して、全身で表現する授業

H28. 12. 21に示された中央教育審議会の答申では、「見方・考え方」と「資質・能力」の関係が、次のように示されています。

体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①各種の運動の特性や魅力に応じた行い方及び身近な生活における健康についての理解を図るとともに、基礎的な動きや基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②運動や健康についての自己の課題に気づき、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養う。
- ③運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

最初にこれを読んだとき、私は「体育の見方・考え方って何?」と思いました。答申では次のように示されていました。

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること

これを小学校の具体的な体育授業として考えたとき、私は、**運動の特性に応じた体の部位に着目すること、動きを比較(自分と他者、自分と自分等)して考えること**が大切だと考え、それらを「見方・考え方」と設定しました。なぜなら、子どもが体の部位に着目し、動きを比較して考えることで、自己の課題に気付いたり、動きを工夫したりすることができる考えたからです。また、この「見方・考え方」は、あらゆる運動領域において汎用的であり、生涯にわたって運動に親しむことに必要だと考えました。

このような「見方・考え方」を働かせて、どのような資質・能力を育成すればよいのか。答申では次のとおりです。私が設定している資質・能力については、研究紀要のp150, 151や研究計画、指導案をご覧ください。

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

では、「見方・考え方」を子どもが働かせるには、教師はどのような手立てを行えばよいのでしょうか。私は、「他教科との横断」「タブレット端末の使用」の2つの手立てを行います。他教科等と関連して単元を組むことで、複数の「見方・考え方」を働かせて様々な資質・能力を発揮しやすくします。また、タブレット端末のカメラ機能を使うことで、子どもは自分の動きと友達の動き、前の動きと今の動きとを比較することができます。

これら2つの手立てにより、今年度は1年生の表現リズム遊びの領域で、動きを変化させる工夫を通して、リズムに乗ったり題材の特徴を生かしたりして、全身で表現する子どもを目指します。

手立て①. 教科等横断的単元を開発し、教科等横断的な資質・能力を育成します！



変化の激しい実生活や実社会でもたくましく生き抜くには、教科等の枠組みにとらわれることなく、教科等横断的に様々な資質・能力を発揮して課題解決することが大切です。そのために、各教科等で育成された様々な資質・能力を横断的に発揮できる単元を開発し、実践しています。そして、複数の教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにします。

今回は、国語科で学習した「スイミー」を題材として表現遊びを行う単元「ミュージカルごっこ『スイミー』」を行いました。表現の仕方を工夫している子どもに、「どうしてそのような動きを考えたのですか」「それを表現するために、どこをどんなふうにかすのですか」などと問います。子どもは、「本文に〇〇って書いてあったから、こんな動きをしようと思った」などと、言葉に着目するという国語科の「見方・考え方」を働かせて、言葉によって感じたり想像したりする力（国語科の思考力・判断力・表現力）を発揮します。さらに、「腕をユラユラと動かします」などと体の部位に着目する「見方・考え方」を働かせて、運動の行い方を工夫する力（体育科の思考力・判断力・表現力）も発揮します。そして、様々な資質・能力を発揮して、よりよい動きを見いだします。このように、「ミュージカルごっこ『スイミー』」の単元では、国語科と体育科の資質・能力を発揮することができるのです。

私は、ほかにも音楽科の「リズム遊び」と表現遊びとを関連させた単元や生活科の「生きもの大すき」と表現遊びとを関連させた単元を行ってきました。表現遊びは、他教科等の資質・能力を育成するのに、とても適している領域だと思います。

手立て②. 「タブレット端末のカメラ機能」を活用し、自分の動きを見られるようにします！



よりよい動きに改善させるための働き掛けとして、教師が「こんなふうに踊ってみよう」などと、必要な動きを示していました。しかし、自分がどんなふうにかしているのか分からない子どもは、その動きができていないのかははっきりしないので、たとうまくできなくても「ぼくは、できているよ」「もう工夫するところはないよ」などと答える子どももいました。子どもが、よりよい動きに改善するためには、自分の姿を可視化し、よい点やよくない点を見付けられるようにする必要があります。

そのために、私は「タブレット端末のカメラ機能」を活用します。それにより、踊っているときには見えない自分の姿を見ることができます。「足を上げていたつもりだったけど、あまり上がっていなかった。もっと上げた方がよさそうだ」などと、可視化したことで新たな改善点に気づき、その気づきを基にしてよりよい動きに改善します。

1年生という実態を考慮して、タブレット端末は三脚に固定し、子どもはボタン操作だけ行います。これにより、ぶれることなく撮影することができます。また、全員で撮影した映像を見るときにも、三脚があるとみんなで見るときにも見やすくなります。

では、自分の映像を見られれば、よいのでしょうか。そうではありません。単に映像を見ても、自分に生かせる子どももいれば生かせない子どももいます。その差は、どこを見ているかによります。教師が「映像を見て、改善点を探しましょう」と発問するだけでは、子どもに差が出てしまいます。ここで、体の部位に着目するという体育科の「見方・考え方」を働かせることができるようにする手立てが必要です。そのために、私は「うごきヒントシート」を提示します。「うごきヒントシート」とは、課題解決に必要な情報を時間・空間・力性の観点で整理した表です。整理するとき、体の部位は赤色で、その動かし方を青色で示します。こうして、体の部位に着目させるようにします。